

浅間山

○概況（平成 15 年 1 月）

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

地震活動は、やや活発な状態が続いており、また噴煙活動は、活発だった 2002 年 6 月～8 月と比べて穏やかな状況でしたが、火口底の温度は高い状態が続いていると考えられます。火山ガス（二酸化硫黄）の放出は放出量に変動は見られるものの平均して 1 日あたり 1000 トン程度の状態が続いており、山頂付近では少量の火山灰の噴出や火山ガスに注意が必要です。

○地震活動の状況

2000 年 9 月から地震活動のやや活発な状態が続いています。1 日あたりの地震回数は 10～40 回程度で推移しています（全て無感地震、表 1、図 1、図 2）。火山性微動は観測されませんでした。

表 1 火山性地震日別回数表（浅間山）

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
低周波地震	32	17	25	27	31	27	25	29	35	20		268	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	
低周波地震	15	26	28	26	19	19	37	4	30	42		246	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	4
低周波地震	39	18	31	19	26	13	16	20	23	31	21	257	771

短期・日別 地震活動推移（最近 2 年間の火山性地震の日別回数）

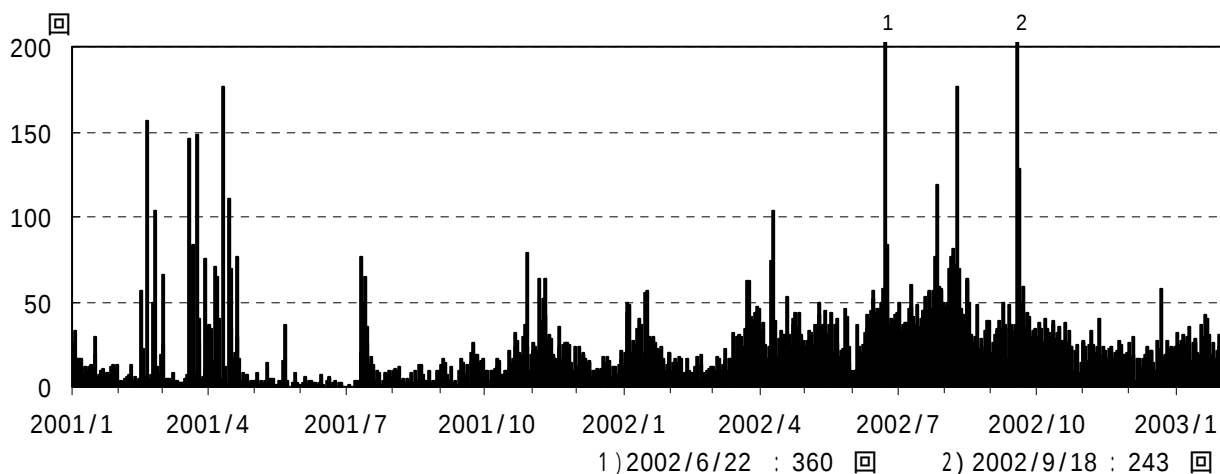


図 1 浅間山 火山性地震日別回数(2001年2月1日～2003年1月31日)

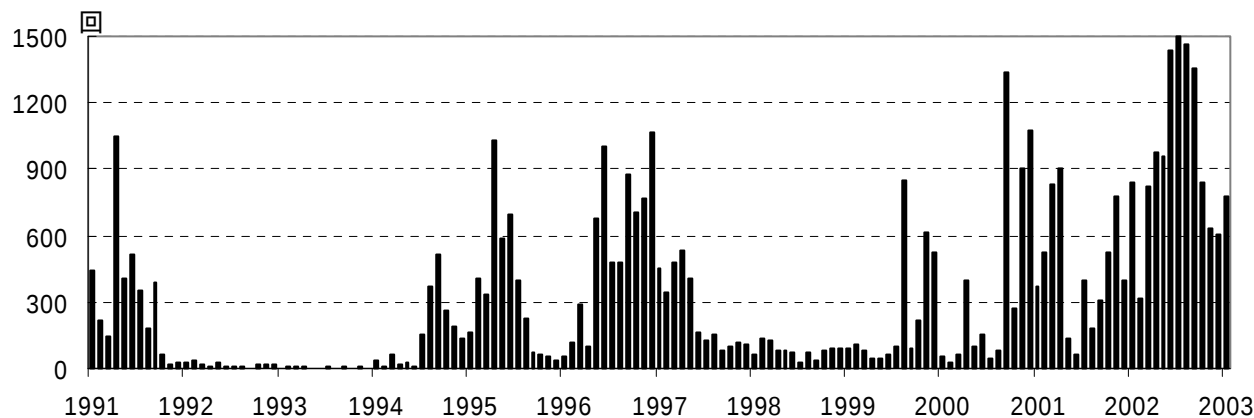
長期・月別 地震活動推移 （1991 年 1 月以降の火山性地震の月別回数）

図2 浅間山 火山性地震月別地震回数(1991年1月～2003年1月)

○ 噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、噴煙活動の活発だった 6 月～8 月に比べ、穏やかな状態が続いたものの、依然噴煙がやや多い状態が続いています。（図 3～5）

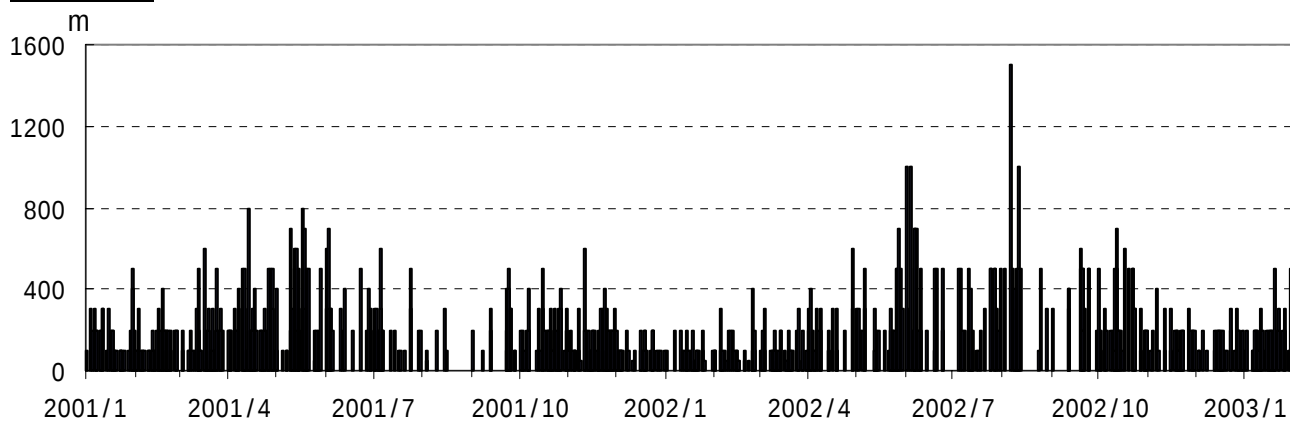
短期・日別 噴煙活動推移 （最近 2 年間の日別噴煙高度）

図3 浅間山 日別噴煙高度（2001年2月1日～2002年1月31日）

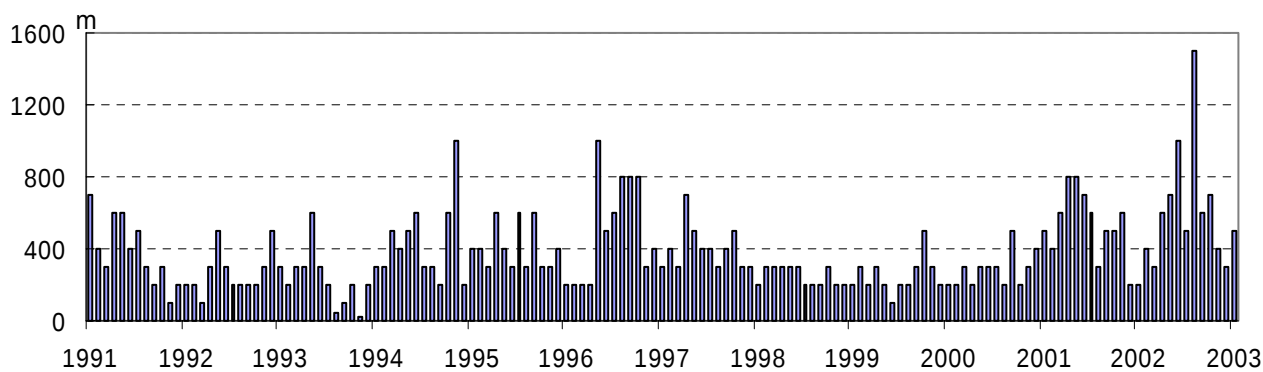
長期・月別 噴煙活動推移 （1991 年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量）

図4 浅間山 月別噴煙高度（1991年1月～2003年1月）

* 09・15 時の定時観測のうちで最大を示しています

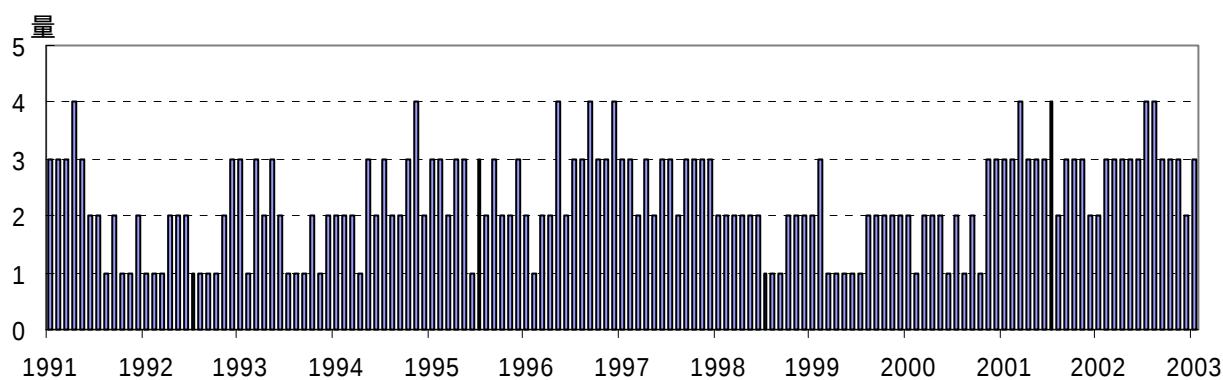


図5 浅間山 月別噴煙量（1991年1月～2003年1月）

* 09・15 時の定時観測のうちで最大を示しています

○ 火口温度の状況

1 月は、群馬県林務部設置の高感度カメラおよび赤外カメラのレンズが雪に覆われたことにより、火口底内の様子を十分に観測できなかったものの、時折、赤外カメラにより火口底内の高温部分が確認されており（図 6、図 7）、依然火口底温度の高い状態は続いていると考えられます。



図6 火口内の様子（2003 年 1 月 3 日）



図6 火口内の様子（2003 年 1 月 3 日）

○ 火山ガスの状況

1 月 16 日に実施した二酸化硫黄の放出量の観測結果は、1 日あたり約 500～800 トンでした（図 8）。放出量に大きな変動がみられるものの、2002 年 10 月以降は、平均すると 1 日あたり 1000 トン程度の状態が続いており、依然多い状態となっています。

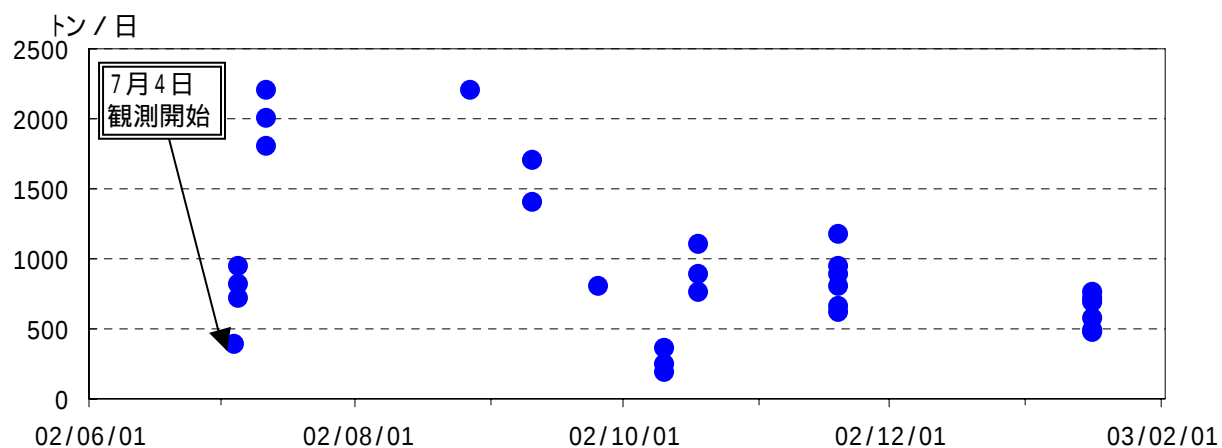


図8 浅間山 二酸化硫黄放出量(2002 年 7 月～2003 年 1 月)

○地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした。傾斜観測でも大きな変化は観測されていません(図9～11)。

